

令和3年度 文部科学省委託

「幼児教育の教育課題に対応した指導方法等充実調査研究  
(特別な配慮を必要とする幼児への指導の充実に関する調査研究)」

**幼稚園における指導上の配慮等に関する研究（外国籍等幼児）  
—特別な配慮を必要とする幼児（外国籍等幼児）への指導の在り方—**



本報告書は、文部科学省の「幼児教育の教育課題に対応した指導方法等充実調査研究」の委託費による委託業務として、<新宿区教育委員会>が実施した令和3年度幼児教育の教育課題に対応した指導方法等充実調査研究の成果を取りまとめたものです。  
したがって、本報告書の複製、転載、引用等には文部科学省の承諾が必要です。

令和4年3月  
新宿区教育委員会

## 研究の目的

新宿区立幼稚園においては、1割以上の外国人幼児が在籍しており、その割合は近年増加傾向にあります。海外から帰国した幼児や両親が国際結婚であるなどのいわゆる外国につながる幼児（以降、「外国籍等幼児」）を合わせれば、その割合はさらに大きくなり、国籍も様々です。

外国籍等幼児の多くは、異文化における生活経験等を通して、我が国の社会とは異なる言語や生活習慣、行動様式に親しんでいるため、一人一人の実態は、その在留国や母国の言語的・文化的背景、滞在期間、年齢、就園経験の有無、さらには家庭の教育方針などによって様々です。また、これらの幼児の中には生活に必要な日本語の習得に困難のある幼児もいます。

本研究では、外国籍等幼児が多く在籍する本区において、一人一人の幼児の実態を的確に把握し、指導内容や指導方法の工夫を組織的かつ計画的に行うとともに、全教職員で共通理解を深め、幼児や保護者と関わる体制を整えていくことを目的として研究を進めることとしました。

## 研究の概要

- ・外国籍等幼児が多く在籍する本区の3つの区立幼稚園を教育課題モデル校として指定しました。
- ・研究内容を相互に共有する連絡会を「実行委員会」と位置付け、実態把握や指導内容、指導方法の工夫について調査研究を行いました。
- ・研究は以下の4点を中心にすすめてきました。
  - 1 外国籍等幼児に対する保育・教育の在り方（指導内容・指導方法の工夫）について
  - 2 ユニバーサル・デザインの視点に基づいた環境構成について
  - 3 組織的な体制の構築について
  - 4 幼児教育の多言語対応に向けたICT機器の活用について

## 昨年度の研究のまとめ

### 1 外国籍等幼児に対する保育・教育の在り方（指導内容・指導方法の工夫）について

- まず教師自身が、外国籍等幼児が暮らしていた国の生活などに関心を持ち、理解しようとするのが大切です。そうすることで、幼児が次第に自己発揮できるようになります。
- ・母語での手遊び歌や挨拶が、園生活へ馴染んでいくきっかけとなります。
  - ・日本語を「覚えさせる」のではなく、遊びや友達との関わりの中で、言語の獲得が進んでいきます。
  - ・教師が文化的背景を理解したり、手遊び歌等の資料を集めたりすることは重要ですが、各園で調べるには時間がかかり、資料も十分ではありません。今後資料を集め、共有できるようにする必要があると考えます。

### 2 ユニバーサル・デザインの視点に基づいた環境構成について

- 外国籍等幼児が、教師や他の幼児との触れ合いの中で、自然に日本語に触れたり、日本の生活習慣に触れたりすることができるように配慮することが大切です。また日本語の習得状況に関わらず、過ごしやすい環境を整えることも大切です。
- ・物の場所や約束事を言葉で伝えるだけでなく、イラストや写真を入れて表示をすることで、外国籍等幼児はもちろん、すべての幼児にとって分かりやすくなります。

### 3 組織的な体制の構築について

- ・昨年度は、園の対応についての実態把握を十分に行うことができませんでした。今年度は外国籍等幼児・保護者について、より適切で有効な対応等を調査することとしました。

### 4 幼児教育の多言語対応に向けた ICT 機器の活用について

- 幼児や保護者とのコミュニケーションを図るための一助として双方向音声翻訳機やタブレット端末を活用し、相互理解や安全確保に努めました。
- ・日常の保育の様子を写真や動画で撮影し、保護者と共有することで、教師と保護者のコミュニケーションの充実を図ることができました。
  - ・双方向音声翻訳機の活用で、保護者へ連絡事項を伝えることが円滑になりました。外国籍等幼児への使用については、配慮点や留意点を整理し、活用していくことが必要です。
  - ・実行委員会を中心として、区立幼稚園の入園に際し保護者に説明することが必要な事項を洗い出し、講師の助言のもと内容を精選した上で区立幼稚園共通の入園説明プレゼンテーションを多言語で作成しました。

## 今年度の研究

「組織的な体制の構築」について、各園での取組や配慮していることについてまとめ、区立幼稚園全体へ啓発を図り、幼児や保護者と関わる体制を整えていくことを目指して研究を進めました。

### ① 外国籍等幼児や保護者は、幼稚園の生活でどんなことに困っているのでしょうか。園ではどのような支援ができるのでしょうか。

外国籍等幼児に関わらず、幼児が入園することになった場合、その対応は各園が行うこととなります。入園に際して必要となる書類の内容や記入方法、園の生活に必要な物、PTAについてなど、園が保護者に説明すること、保護者が用意することは多岐にわたります。

外国籍等幼児の保護者は外国籍である場合が多く、日本語の理解が難しかったり、日本の幼稚園についてのイメージがもてなかったりすることがあります。外国籍等幼児もまた、園での生活の中で言葉や習慣に戸惑いを覚え、不安を覚えます。

そのような外国籍等幼児・保護者に対して、園ではベテランの教員がこれまでの経験を基に対応し、幼児や保護者の不安を取り除き、よりより園生活が送れるよう気を配っています。しかし、若手の教員が多い園や外国籍等幼児の受け入れが少ない園では、外国籍等幼児やその保護者への対応に苦慮している現状があります。そこで、モデル園で行っている取組や配慮していることをまとめ、外国籍等幼児・保護者へ対応がどの園でもスムーズにできるようにしたいと考えました。

まず、外国籍等幼児が入園してから園での生活に慣れていく時期を「Ⅰ 入園準備～入園時」「Ⅱ 入園して少し経った頃(入園して概ね1～3か月)」「Ⅲ 園の生活に慣れてきた頃(入園して概ね3か月～)」「その他」に分けて、それぞれの時期での配慮事項をまとめました。また、対応については「幼児に対して」「保護者に対して」「園側の配慮」「関係機関との連携」に分けてまとめました。

#### ☆資料1 「園の対応 確認表」

### ② 入園時に配慮すべきことは、どんなことでしょうか。

入園時には、特に多くの書類や園での生活に必要な物の準備が求められますが、それは外国籍等幼児の保護者にとっては大きな負担です。幼児の安全な園生活のために必ず聞いておくこと、必ず準備してもらう物と、徐々に確認していけばよいこと、準備してもらえばよい物を整理しておく必要があります。

そこで、区立幼稚園共通の「入園申請書」「生活表」を基に、保護者面接の際、確実に確認すべきことや説明すべきこと、配慮することなどを、資料1とは別にまとめることとしました。

☆資料2「幼児・家庭の状況確認シート(入園時)」

☆資料3「幼稚園生活について伝えるときに留意すること」

### ③ 園からの文書やメールを作成する際、配慮できることはどんなことでしょうか。

保護者の日本語への理解には差があります。そこで、日本語の文書にルビを付けたり、平仮名で文書全体を作成したりして対応している園があります。また、保護者が個人で活用している翻訳アプリで翻訳しやすいよう、園が作成する文書は簡潔で分かりやすい文書になるよう意識している園もあります。

また、対応として難しい場面として医療機関の受診があげられます。受診の際には、保護者に丁寧に説明すると共に、必要書類に園からの説明を添える工夫もしています。

### ④ 園だけで対応できない時はどうしたらよいでしょうか。

外国籍等幼児・保護者への対応は、園のみならず関係機関等と連携して行うことが必要です。資料1～3には関係機関等との連携について◎印をつけていて、問い合わせ等が必要な際にすぐに対応できるよう「関係機関一覧」にまとめました。

☆資料4「関係機関一覧」

### ⑤ 実際、園ではどのように対応したり、支援したりしていますか。

モデル園で行っている取組や配慮をまとめ、外国籍等幼児・保護者への対応がどの園でもスムーズにできるようにしたいと考え、資料1～4をまとめました。一方で、同じ出身国・地域であっても場所によって文化や風習、言葉が違っていたり、日本での生活歴や各家庭での成育歴によって幼児・保護者の状況には個人差があったりと、資料だけでは対応できない場面も多くあります。その点を忘れず、それぞれの幼児・保護者にあった対応が求められます。

そこで、入園してからどんな時期に、園生活のどんな場面で、どのような対応や配慮を行っているのか、モデル園での事例をまとめました。なお、この事例は資料1～4内の★事例番号と対応しています。

★事例① お弁当の時間

★事例② 視覚教材を活かした歌の指導

★事例③ 双方向音声翻訳機の活用

★事例④ 友達の国の遊びを取り入れた活動

★事例⑤ 日本語サポート指導員を活用した入園当初の指導

★事例⑥ ICTを活用した保育参観や学級懇願会

★事例⑦ 表示の工夫

★事例⑧ ミニ事例集

## 今年度の研究のまとめ

組織的な体制の構築について

★外国籍等幼児が安心して充実した園生活を送れるよう、どの園のどの教員も対応できるようにしていくことが大切です。

- ・一度にすべてを説明したり準備したりしようとせず、整理しておくことが必要です。保護者も教員も焦ることなく、余裕をもって園生活をスタートさせることが幼児にとってもよい影響を与えます。
- ・一方で、安全な園生活を送るためにも、確実に把握しておかなくてはならないこと、保護者に理解してもらわなくてはならないこともあります。園だけで対応が難しい場合には通訳や翻訳などを活用することが必要です。
- ・外国籍等幼児やその保護者が安心して通える園・通わせたい園であるために対応していること、配慮していることは、すべての幼児・保護者にとっても安心につながります。それぞれの幼児・保護者の立場にたって、必要な支援を園全体で行っていくことが大切です。

## 【園の対応 確認表】

	家庭		園	関係機関 ◎関係機関一覧参照
	幼児	保護者		
ー 入園準備 ↳入園時	<div style="border: 1px solid black; padding: 5px; text-align: center;">                     【幼児・家庭の状況確認シート】（入園時） 参照                 </div>		<div style="border: 1px solid black; padding: 5px; text-align: center;">                     【幼稚園生活について伝えるときに留意すること】参照 ★事例①                 </div> <p><input type="checkbox"/>多言語の表示を準備する。 （トイレ・保育室など）</p> <p><input type="checkbox"/>必要提出書類の確認をする。必要に応じて代筆する。 ・タブレット端末や双方向音声翻訳機などを活用する。</p> <p><input type="checkbox"/>その国の文化・習慣などについて事前の知識を最低限知っておく。 ・例：日本は褒めるときに頭をなでることがあるが、国によっては、頭は神聖な場所なので触るとトラブルになることもある。知らなかったでは済まされないこともある。</p>	<p><input type="checkbox"/>申請書などの手続きが難しい場合には通訳を手配する。◎</p> <p><input type="checkbox"/>必要に応じて園だよりなどの翻訳を依頼する。◎</p>

	家庭		園	関係機関
	幼児	保護者		
㊦ 入園して少し経った頃 (入園して概ね1〜3か月)	<input type="checkbox"/> 園生活の流れでどんなところに戸惑いを感じているか。困っているのはどんなところか。 (生活習慣の違い)  <input type="checkbox"/> 教師に親しみを感じているか、不安感を抱いていないか。  <input type="checkbox"/> 自分の思いを出せているか。 ★事例② <input type="checkbox"/> 好きな遊びは何か。 <input type="checkbox"/> 気になる友達是谁か。  <input type="checkbox"/> 教師の話す言葉をどのくらい理解しているか。 <input type="checkbox"/> 双方向音声翻訳機やタブレット端末を使って、教師の言うことが分かるか。 ★事例③ <input type="checkbox"/> 日本語、母語のどちらかが会話に有効か。 <input type="checkbox"/> 母語はあるか。 (何語で考えているか。)	<input type="checkbox"/> 園生活の流れに戸惑いを感じていないか。 <input type="checkbox"/> 持ち物、一日の流れ、行事など理解できているか。困っていることはないか。 <input type="checkbox"/> 区からの手紙、降園時の連絡が分からず、困っていないか。 ・連絡内容について個別に知らせる。兄や姉の学校の手紙など、園以外のことでも困っていたら手紙と一緒に読むなどして、内容を教える。細かに対応し、安心して過ごせるようにする。  <input type="checkbox"/> 保護者同士のつながりがあるか。(クラスで頼れる保護者がいるか。) <input type="checkbox"/> PTA 活動に参加できているか。	<input type="checkbox"/> 幼児の国に関する写真や国旗を掲示する。 <input type="checkbox"/> 母国の言語に関する絵本を用意し目につくところに置く。 <input type="checkbox"/> 母国の手遊びや歌、ゲームなどを保育の中に取り入れる。 ★事例④ ・幼児が園に来る楽しみができるようにする。 <input type="checkbox"/> 担任だけでなく園全体で対応していく。こまめに保護者に声掛けを行う。  <input type="checkbox"/> 保護者への連絡はメモを渡したり、双方向音声翻訳機を活用したり、同じ国の保護者に通訳を依頼しサポートしてもらったりする。 <input type="checkbox"/> 行事の説明をする。(何をするか、誰が参加するかなど)  <input type="checkbox"/> 同じ国の保護者を必要に応じて紹介する。 ・同じ国でも、地域や職種、教会などのコミュニティなどに配慮が必要。  <input type="checkbox"/> 日本語の獲得面で保護者が不安になっている場合には、母語の大切さを伝え、家庭の安定を図る。	<input type="checkbox"/> 地域図書館に当該幼児の国の言葉の絵本の検索を依頼する。 <input type="checkbox"/> しんじゅく多文化共生プラザ◎  <input type="checkbox"/> 保護者会や面談の際に通訳派遣を依頼する。◎  <input type="checkbox"/> 日本語サポート指導を依頼する。◎ ★事例⑤



	家庭		園	関係機関
	幼児	保護者		
目 園の生活に慣れてきた頃（入園して概ね3か月）	<input type="checkbox"/> 園生活の流れが分かってきているか。 <input type="checkbox"/> 教師の指示が理解できているか。  <input type="checkbox"/> 友達とのつながりはどうか。友達の言っていることや思いを分かろうとして、関わろうとしているか。 <input type="checkbox"/> 友達同士の会話は成立しているか。  <input type="checkbox"/> 日本語の理解はどうか。 <input type="checkbox"/> どの程度、母語が確立しているか。（単語、日常会話レベル、思考、通訳できるかなど）	<input type="checkbox"/> 日本での生活で困っていることはないか。 <input type="checkbox"/> 行事等に関して、分からないこと困っていることはあるか。  <input type="checkbox"/> 保護者同士でコミュニケーションを図れているか。	<input type="checkbox"/> 保護者に母国の文化や言語などについて子供たちに話してもらう機会をつくる。 <input type="checkbox"/> 母国の歌遊びやスポーツなどの情報を園生活や話題に取り入れる。 <input type="checkbox"/> こまめな声掛けや面談の実施で園との関係を築く。 <input type="checkbox"/> 幼児の変容や生活の様子を知らせる。 <div style="text-align: right;">★事例⑥</div> <input type="checkbox"/> 保護者同士でサポートしてくれている方にねぎらいの言葉をかけ、さらに信頼関係をつくれるようにする。  <input type="checkbox"/> 5歳児：生活グループに配慮し、母語が同じ幼児、周囲を気遣える幼児などを意図的に配置する。  <input type="checkbox"/> 幼児の困り感や行動面の課題が続く場合には、言語や文化の違いによるものでないことも想定して観察や分析を行う。	<input type="checkbox"/> 保護者面談を行う際に必要なら通訳派遣を依頼する。◎  <input type="checkbox"/> これまで日本語サポートの支援を受けず様子を見てきた幼児について、日本語の獲得が思うように進まず、遊びや生活でコミュニケーションが図れなかったり指示理解が難しかったりする場合は、日本語サポートの利用を考える。◎  <input type="checkbox"/> 発達上の課題が見られる場合には、子どもも総合センターなどと連携を考える。◎

	家庭		園	関係機関
	幼児	保護者		
その他		<input type="checkbox"/> 5歳児：小学校は日本の学校に行くか。（就学時検診の通知が来ているか。食べ物や生活習慣などで最低限困らないよう適宜提案していく。）	<input type="checkbox"/> 「5歳児だから〇〇できる」という固定観念に捕らわれず、入園の時期や日本での生活経験を踏まえ、個々への援助や学級での取組を考えていく。  <input type="checkbox"/> 日本の味付けに慣れていけるよう、栽培物を使った会食の機会を大事にする。  ★事例①	<input type="checkbox"/> 5歳児：就学先への情報提供

## 【幼児・家庭の状況確認シート】（入園時）

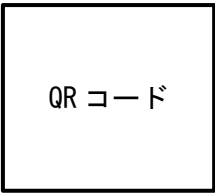
※入園の際の聞き取り及び入園申請書や生活表記入の際に丁寧に確認する。

	項目	質問	済	関係機関との連携
1	本名と呼称	<ul style="list-style-type: none"> <li>・本名を教えてください。</li> <li>・園で本人を呼ぶときの名前を教えてください。</li> </ul>	<input type="checkbox"/>	
2	保護者への連絡方法や 緊急連絡先 ・保護者 ・日本語が通じる人、 ・会社などの電話番号	<ul style="list-style-type: none"> <li>・災害の時やけがをした時など、直ぐに連絡がとれる連絡先（続柄）を教えてください。</li> <li>・日本語で伝えても難しい場合は、通じる人（友達など）がいれば、その人の連絡先（続柄）も教えてください。</li> </ul>	<input type="checkbox"/>	
3	国籍	<ul style="list-style-type: none"> <li>・本人の国籍はどこですか。</li> <li>・保護者の国籍はどこですか。</li> </ul>	<input type="checkbox"/>	
4	成育歴 （来日前の就園状況 等含）	<ul style="list-style-type: none"> <li>・生まれた国はどこですか。</li> <li>・来日したのはいつですか。</li> <li>・保育園などに通っていたことはありますか。</li> </ul>	<input type="checkbox"/>	
5	家族構成	<ul style="list-style-type: none"> <li>・一緒に住んでいるご家族は何人ですか。 例：お父さん、お母さん、本人、きょうだい</li> <li>・きょうだいは、何歳ですか。</li> <li>・送迎は誰が行いますか。</li> </ul>	<input type="checkbox"/>	
6	日本語の習得状況・	<ul style="list-style-type: none"> <li>・本人は日本語がどのくらい分かりますか。</li> <li>・保護者の方は日本語がどのくらい分かりますか。 （聞く/話す/読む/書く）</li> <li>・保護者会や面談の時、通訳が必要ですか。</li> </ul>	<input type="checkbox"/>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・通訳派遣◎</li> <li>・翻訳依頼◎</li> <li>・日本語初期指導◎</li> </ul>
7	家庭内での言語状況	<ul style="list-style-type: none"> <li>・お家では、何語で会話をしていますか。 例：お父さんとは何語で話していますか。 ：お母さんとは何語で話していますか。</li> </ul>	<input type="checkbox"/>	
8	習慣 <ul style="list-style-type: none"> <li>・食べ物</li> <li>・行動</li> <li>・生活リズム</li> <li>・宗教など</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・食べ物、行動、生活リズムなど、気を付けてほしいことはありますか。 例：食べてはいけないものはありますか。 ：触ってはいけない動物はいますか。</li> </ul>	<input type="checkbox"/>	
9	就学予定	<ul style="list-style-type: none"> <li>・日本で就学予定ですか。</li> </ul>	<input type="checkbox"/>	
10	本人について	<ul style="list-style-type: none"> <li>・アレルギーはありますか。（食物、動物）</li> <li>・好きなことは何ですか。苦手なことは何ですか。</li> <li>・洋服、靴の着脱は自分でできますか。</li> <li>・排泄（処理）は自分でできますか。</li> </ul>	<input type="checkbox"/>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・医療機関受診</li> <li>・アレルギー面談</li> <li>・必要書類</li> </ul>
11			<input type="checkbox"/>	
12			<input type="checkbox"/>	

## 【幼稚園生活について伝えるときに留意すること】

	項目	事前に準備しておくもの	済	関係機関等との連携
1	入園について	・入園申請書類等	<input type="checkbox"/>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・学校運営課幼稚園係</li> <li>・多言語版入園説明資料 (区立幼稚園説明用 プレゼンテーション)</li> <li>・新宿区ホームページ</li> </ul>
2	園長・副園長(主任) 担当教諭の名前	・「入園のしおり」	<input type="checkbox"/>	・翻訳依頼◎
3	園の連絡先	・「入園のしおり」	<input type="checkbox"/>	・幼稚園ホームページ
4	遅刻・欠席等の 連絡方法	・「入園のしおり」	<input type="checkbox"/>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・多言語版入園説明資料</li> </ul>
5	毎日必要な持ち物	・実物 ★事例①	<input type="checkbox"/>	
6	園に置いていく物	・実物	<input type="checkbox"/>	
7	主な行事	・写真や動画	<input type="checkbox"/>	
8	幼稚園の一日の流れ	・写真や動画	<input type="checkbox"/>	
9	園で必要となる費用 (教材費など)	・実物	<input type="checkbox"/>	
10	一斉メール	・登録用紙	<input type="checkbox"/>	
11	個人情報に関する きまり	・「入園のしおり」	<input type="checkbox"/>	
12	施設の使い方	<ul style="list-style-type: none"> <li>・見学</li> <li>・表示 ★事例⑦</li> </ul>	<input type="checkbox"/>	
13	感染症に関わる約束	・「入園のしおり」	<input type="checkbox"/>	
14	アレルギー	<ul style="list-style-type: none"> <li>・必要書類</li> <li>・医療機関受診依頼</li> <li>・アレルギー面談実施 園長・副園長(主任) 担任</li> </ul>	<input type="checkbox"/>	・学校運営課保健給食係
15	PTA	・「PTAについて」	<input type="checkbox"/>	・翻訳依頼◎

## 【関係機関一覧】

	内容	担当・連絡先	対応・書式等保管場所☆
1	通訳を依頼	〇〇センター事務室 FAX : 03-〇〇-〇〇	通訳派遣希望日の 10 日前までに、様式を〇〇センターへ FAX にて送付する。 ☆庁内共有ドキュメント>教育委員会事務局>〇〇課>〇〇センター>〇〇教室>日本語初期指導
2	文書翻訳	〇〇課〇〇係	別紙と翻訳してほしい文書を合わせてメールで送付する。 ☆庁内共有ドキュメント>教育委員会事務局>〇〇課>〇〇係>外国籍児童等への支援事業
3	日本語初期指導	〇〇室 TEL : 03-〇〇-〇〇	希望を担当へ電話で伝える 様式 1 「申請書」を交換便で送る。 ☆庁内共有ドキュメント>教育委員会事務局>〇〇課>〇〇センター>〇〇教室>日本語初期指導
4	情報収集	しんじゅく〇〇プラザ 新宿区〇〇町〇-〇-〇 03-〇〇-〇〇	
5	多言語版 入園説明資料	幼稚園 ICT ポータル(ID・PWが必要) 	
6			
7			
8			

## ★事例①

# お弁当の時間～母国の食文化に配慮しながら日本の習慣を受け入れてもらう～

## 幼児・保護者の状況

「お弁当」という文化は日本独特のものがあり、外国につながるのある保護者の方にはイメージすることが難しく、どのようなものを持ってきたらよいのかと戸惑う場面が多々見られます。また、弁当箱や弁当を入れる袋など、どこに行ったら揃うのかも分からず、不安になる姿も見られます。そこで、実物や写真を見せながら説明し、理解ができるようにしています。一方で、保護者には、日本の弁当スタイルにはこだわらず、中身は幼児自身が食べられるもので良いことを伝え、負担感がないよう配慮しています。

## 幼児・保護者に対する手立て

A児の初めての弁当の時間です。周囲の幼児の姿を見ながら、同じようにランチマットを敷き、お弁当箱を出しました。A児はうれしそうにみんなと「いただきます」のあいさつをしてふたを開けましたが、一向に食べる気配がありません。中身を確認すると、写真で見せたようにいくつか日本の食材を組み合わせたものが入っていました。

結局その日、A児は一口も食べませんでした。降園時に保護者にその話をすると、A児が一度も食べたことのない物が入っていたことが分かりました。そこで、普段家で食べているものを具体的に聞き、明日は、その料理を入れてくるよう頼みました。

翌日、A児は弁当の時間、浮かない顔をしていましたが、弁当の中身が分かると、ほっとしたような顔をして食べ始めました。その日は完食することができ、保護者もうれしそうなお顔をしていました。



## 成果や苦慮していること

食の指導のことを考えると、どうしてもバランスよく、いろいろな食材を口にできるようにという先入観が私たち教員にはあります。しかし、外国につながるのある方にとって、日本の弁当文化そのものが受け入れ難いこともあります。中には、食事は常に温かい物であり、冷めたものを食べることに自体に抵抗がある国の方もいます。

こちらが先入観を捨て、それぞれの国の食文化を知り、互いに寄り添いながら、それぞれの「弁当スタイル」を考えていくことが重要だと考えています。また、視点を変えると、弁当の時間は、友達の国の食文化に触れる機会として捉えることができ、幼児の興味関心を広げる場ともなっています。

## 配慮すべきこと

それぞれの食文化を大事にし、受け入れていくことで弁当への抵抗をなくすことは重要ですが、その幼児が日本で暮らし、日本の学校に就学予定である場合は、少しずつ日本食やスタイルに慣れていくことも重要です。

本園では、日本の味に慣れる機会を設けるために、園で幼児が栽培した食材を使って調理し、みんなでいただく経験を大事にしています。友達と同じものを食べることで、抵抗も薄れ、少しずつ日本の料理も食べられるようになっていく姿が見られます。

## ★事例②

# 視覚教材を活かした歌の指導

### 幼児・保護者の状況

3歳児クラスに在籍するB児は韓国籍で、家庭では韓国語で会話をしています。入園当初は発音が不明瞭で、話すことが少なく、話し始めても思いが伝わらないもどかしさで話すことをやめてしまう姿がありました。

体操やダンスなど体を動かして遊ぶ活動には喜んで参加していましたが、歌の活動では歌詞が分からないわからないことで落ち着かなかったり、楽しめずに席を立ってしまったりすることもありました。

絵本の読み聞かせでは最前列に座り、絵をじっと見ていました。絵や言葉のリズムから内容を理解しようとしている様子がありました。

### 幼児・保護者に対する手立て

歌の指導では、歌詞に関連するイラストを提示し、イメージが思い浮かぶようにしました。「とんぼのめがね」を歌う時にはトンボのペープサートを使用し、また、幼児にもトンボを作る製作活動を取り入れたところ、自分のトンボを持って園庭を走り回るなど生き生きした姿が見られるようになりました。

毎日、降園前のひと時にはイラストやペープサートなどの視覚教材を用いて歌う活動を楽しめるようにし、歌に親しみがもてるようにしました。

また、製作したトンボはいつもでも取り出して遊べるように飾り、保護者にも見せて園生活の様子を知らせて安心してもらえるようにしました。



### 成果や苦慮していること

毎日、繰り返して歌うことで、歌詞に出てくる言葉を覚え、覚えたフレーズを口ずさむようになりました。歌えるようになると、曲に合わせて体を揺らし、隣の友達と顔を見合わせて楽しむ姿が見られました。歌に関連する作品を作ることで、言葉では理解できなくても歌のイメージを楽しむことができ、学級の友達と一緒に楽しんで参加することができるようになりました。

歌の指導は、言葉の理解や獲得、音楽的な活動にとどまらず、自分を表現する喜びや自信、友達とのつながりなど様々な育ちにつながっています。B児を含めた学級の実態や発達に応じた選曲、教材の提示を考慮することが大切だと考えています。

### 配慮すべきこと

様々な活動の際には、言葉による理解を支援することと同時に、イラストや音楽、製作の活動などを取り入れながら、参加したくなるような環境を整えることが大切です。外国籍等幼児にとってわかりやすい活動は、ユニバーサルデザインと同様に他児にとってもわかりやすいということを踏まえ、実態に応じて指導方法を工夫することが必要です。

## ★事例③

# 双方向音声翻訳機の活用

## 幼児・保護者の状況

4歳児クラスには複数の外国籍等幼児が在籍しています。家庭ではどの幼児も母語で会話をしています。C児とD児はほとんど日本語が分からず、園ではあまり話しません。ほかの外国籍等幼児は、簡単な日本語は理解し、友達とやり取りをする姿も見られますが、同じ国籍の幼児同士では母語で話しています。

保護者（母親）には日本語が分からない方もいて、日本語の分かる父親に連絡を取る必要があります。日本語学校に通う保護者もいます。

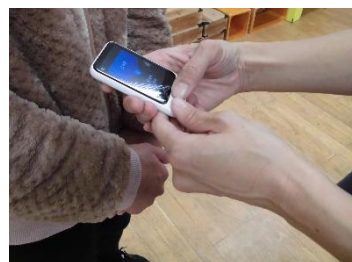
## 幼児・保護者に対する手立て

4月当初、教員が幼児の話していることを理解するために、また教員の思いが幼児に伝わらない時に、双方向音声翻訳機を使用して、意思の疎通につなげました。

また、外国籍等幼児同士が母語で会話をしてトラブルになった際、会話の内容を正確に把握するために双方向自動翻訳機を使い、互いの思いを理解することにつなげました。

毎日の降園時に、保護者に必要な連絡事項を伝える際に、メモを渡すとともに双方向音声翻訳機を活用しています。預かり保育担当職員とも連携して使用しています。

双方向音声翻訳機はいつでも必要な時に使えるように保育室に常備しています。



## 成果や苦慮していること

双方向音声翻訳機からは音声も流れるので、文字の読めない幼児にも使用することができました。双方向音声翻訳機を使用することで、日本語では伝えることができないという幼児のもどかしさが解消され、「思いを伝えられた、理解してもらえた」という嬉しさで教師との信頼関係が強くなりました。また、幼児が母語を聴くことで気持ちが落ち着き、安心して過ごす様子もありました。

言語によっては発音機能が対応していないのでその点には苦慮していますが、保護者には翻訳した文字を読んでもらうことで、時間はかかりますが伝えたいことが確実に伝わります。

## 配慮すべきこと

双方向音声翻訳機には機能に限界がありますが、園側が幼児や保護者に寄り添いたい、思いを伝えたい、理解してもらいたいという気持ちを表すことが大切であると考えます。双方向音声翻訳機に頼るだけでなく、幼児がよく使う母語の言葉を保護者から教えてもらったり、外国語の表示をしたりなどし、互いの国を尊重する雰囲気を作っていくことが大切です。



## ★事例④

# 友達の国の遊びを取り入れた活動～フィリピンの集団遊び～

## 幼児・保護者の状況

5歳児クラスには、外国籍等幼児が多く在籍しています。日本語を介したやりとりでは、細かい部分がうまく伝わらず、もどかしい思いをすることも多いです。また、友達と一緒に遊びを進めていても、イメージや思いを共有しながら進めていくことが難しい現状があります。そこで、簡単なルールで、皆が楽しめる活動を取り入れ、学級のみんなで楽しい雰囲気を感じられるようにしたいと考えました。

外国につながるのがある保護者においては、園に協力的したい思いはあるが、言葉の面からためらうことが多く、保護者が活躍できる場の工夫が課題でした。そこで、自分の国の遊びをゲストティーチャーとして幼児に教えてもらう場を設けることにしました。

## 幼児・保護者に対する手立て

フィリピンの楽しい遊びがあることを幼児に伝えると、子どもたちはどんな遊びなのかと興味津々で教員を見てきました。E児の保護者に教えてもらうことを伝えると、E児もうれしそうな顔をしています。遊び自体は簡単で、幼児もすぐにルールが分かり、みんなで楽しむことができました。

E児の保護者がタガログ語で歌を歌ってくれ、それに合わせてみんなで動くのですが、数回繰り返すと、最後の「ブンティヤーヤ ブンティヤーヤ ブン イェイエ」の部分で、幼児も一緒に歌う姿が見られました。保護者も、幼児から歌声が出てくると、「みんな上手だね。楽しいでしょ」とうれしそうにしていました。



## 成果や苦慮していること

今回取り入れたフィリピンの集団遊びは、簡単なルールで、言葉が分からなくても学級で共有することができ、友達の国の文化に触れるよい機会となりました。また、保護者も、自分のアイデンティティの一部である母国の遊びを取り入れ、大事にしてもらえる経験を積み重ねることで、園生活を幼児と共に楽しめるようになってほしいと考えています。

在籍する園児につながるのがある国すべての歌や手遊び、集団遊びを取り入れていきたいのですが、内容が難しすぎずどの学年の幼児も楽しめる内容のものを見付けるのに時間がかかります。保護者と相談しながら、なるべく多くのものを取り入れていければと思っています。

## 配慮すべきこと

自分の国の遊びなどを教えたいと思っている保護者も、言葉の面でうまく伝えられないもどかしさがあり、消極的なことが多いです。そこで、絵を描いてもらったり、実際に歌ってもらって録音したりするなど、言葉以外の方法で教えてもらう方法を示すことで、不安感を取り除くよう心掛けています。

## ★事例⑤

# 日本語サポート指導員を活用した入園当初の指導

## 幼児・保護者の状況

F児は5歳児4月に入園し、当初は全く日本語が分かりませんでした。母国ミャンマーでは集団生活の経験があり、保護者から離れて園生活を送ることができていたため、しばらく様子を見ることにしました。

徐々に園生活に慣れ、いろいろな活動を楽しむようになりましたが、6月になっても言葉を発することがほとんどなく、遊びの仲間に入れなかったり、大人を求めて職員室に來たりする様子がありました。5歳児は言葉の発達が著しく、子どもたちはイメージを共有したりアイデアを出し合ったりしながら遊びを進めるため、日本語の獲得が不可欠だと考えました。

## 幼児・保護者に対する手立て

F児の保護者に園の様子を伝え、日本語初期指導の制度を活用することを勧めて了解を得ました。教育委員会にミャンマー語の指導のできる日本語サポート指導員(以下、指導員)の派遣を依頼し、9月より指導を開始しました。指導員は遊びの中に入って活動の理解を促したり友達との会話の支援をしたりしました。

本区での日本語初期指導は50時間という制限があるため、行事や活動を見ながら必要な日や時間を抽出し、指導員と相談しながら計画を立てました。まずは指導員と幼児・担任との信頼関係を築くことを大事にし、指導員には保育は総合的な活動であることを知らせるとともに学級の実態やねらいを理解してもらえよう連携を図り、幼児が安心して生活できるようにしました。

## 成果や苦慮していること

F児は言葉が通じる指導員がいることで安心し、笑顔が多く見られるようになりました。いろいろな活動や会話、担任の指示、遊びのルールなどが理解できると主体的に動く様子が見られるようになり、友達との関わりも増えました。

50時間の日本語初期指導が終了して以降、友達に対して先生の話聞くように注意を促すなどいきいきと生活するようになりました。12月のこども会では舞台の上で日本語の歌を自信をもって歌い、劇遊びでは簡単なセリフを大きな声で言うことができました。



## 配慮すべきこと

日本語での会話が十分にできないことで友達とのコミュニケーションが難しい場面があるが、身振りで伝えようとしたり具体的に物や場を示して知らせたりする周囲の幼児の温かさを認め、友達関係を築けるようにすることが大切です。また、本児の話したい気持ちを理解し、必要な場面では日本語の物の名前や表現を知らせ、正しい発音を確認しながら言葉を獲得できるようにすることも大切です。

学級の中でミャンマー語やミャンマーの国旗、世界地図などに触れる機会をつくり、母国を互いに尊重する雰囲気大切にしました。なお、ミャンマー語を保護者から教えてもらいましたが、発音が難しいため、共通語としての英語を活用しました。

## ICT を活用した保育参観や学級懇談会

### 幼児・保護者の状況

各学級に2～3人ほど、外国籍の幼児が在籍しています。普段送り迎えをする保護者も外国籍である家庭が多く、日本語でのコミュニケーションが難しい場面も多く見られます。

持ち物や、行事についての説明は、絵表示や翻訳された手紙などで対応しているのですが、普段の保育の様子や友達関係については口頭になることが多く、日本語での伝達による理解は保護者によって個人差があるようです。さらにコロナ禍により、保育参観など来園の機会が減ったことで、園での幼児の様子を知る機会だけでなく、保護者同士のコミュニケーションを図る場が減っています。

### 幼児・保護者に対する手立て

1学期の保育参観は、コロナ禍により延期になりました。そのため、特に入園して間もない3歳児クラスは、どの保護者にも園での幼児の様子を知ってほしいと考え、弁当参観の様子をタブレット端末で動画に撮り、編集したものをプロジェクターで投影し、3歳児クラスの保護者に見てもらおう機会を作りました。

学級懇談会では、普段の保育の様子を写真に撮り、スライドショーにして投影し、幼児の育ちについて具体的に紹介しました。

園日より、学年だよりの他、写真や動画を活用し、幼児の園での様子を知らせました。

### 成果や苦慮していること

園の様子を写真や動画で見る機会を作ると、外国籍の保護者に限らず、どの保護者の方も「子どもたちの様子がよく分かって良かった。」と感想をいただきました。また、普段トラブルの報告が多くなってしまっていた幼児の保護者の方も、友達と一緒に遊んでいる姿を見ることで、「安心した。」という感想もいただき、言葉だけでは伝わらないことが多くあることが分かりました。

タブレット端末が区から1台支給されたことで、動画の編集やスライドショーの作成がしやすくなり、特に外国籍等幼児やその保護者への対応に役立っています。ただ、保育中に写真を撮ることが難しいのが現状です。また、編集などの知識や技術が十分でなく、教職員が多くない中で、業務の負担は増えています。

### 配慮すべきこと

写真や動画で伝えることは多いですが、そこに教員の思いや、幼児の育ちを伝えることも、重要だと思えます。また、写真や動画を扱う際の人権意識や、個人情報の取り扱いなどについて、教員がより高い意識をもてるよう、心がけています。

特別な配慮を要する幼児への対応については、映し方について十分に配慮しています。

SNS等へのアップロード等、個人情報の取り扱いについて、保護者自身の理解を深めることも大切です。



★事例⑦

## 表示の工夫～誰にでも分かりやすい表示～



### 製作棚（3歳）

写真を用いて、どこに何があるか分かる様にしています。



### 水道（3歳）

蛇口に印(赤丸部分)をつけることで、水を出し過ぎないようにしています。また、コップのマーク(黄丸部分)を付けることで、コップ置き場が見てわかります。



### 正月遊び

種類がたくさんある正月遊びも、種類毎に表示を作ることで、何があるか見てわかり、片付けも元の場所に戻すことができます。



### 砂場道具

種類毎にかごを作り、何が入るか分かりやすくしています。小さい子も遊ぶことがあるので、大きい絵で表示しています。

## 三 二事例集

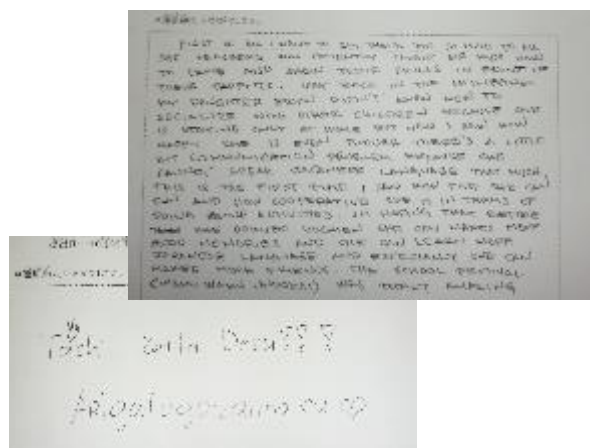


### 【言語獲得の確認

#### ～絵本の読み聞かせの場面で～】

降園前に学級全体で、いろいろな動物や雪だるまが出てくる絵本の読み聞かせをしました。外国籍のG児はにこにこしながら絵本を見ていましたが、時々、絵本から目を離し、周りを見回すことがありました。

教員は、絵本の内容を理解できているかと気になり、翌日の弁当後の食休みの時間に、前日に読み聞かせをした絵本を一緒に見ました。絵本のページをめくるより先に、次に登場する動物について話す姿がありました。教員は「そうだね。ワニだね」とG児の言葉を繰り返しました。G児が「これ」と指示語で表した絵は、ユニークな形の雪だるまでした。教員は「おばけの形の雪だるまだね」と具体的に言葉にしました。G児は「おばけ」とつぶやいていました。絵本を通して、日本語やお話の内容を確認したり、知らせたりすることが言語の獲得につながっていくと思います。



### 【外国の方にも思いはある

#### ～行事後の感想～】

日本語での会話や文章を書くことが難しい保護者の方も、園に対してたくさんの思いをもってくださっています。少しでもその思いを教育に反映していけるように、感想は母語で書いてもよいことにしています。

他の保護者の方々も、日本語訳を添えた手紙を作ってくださいたり、積極的にPTA会報に載せてくださったりしています。



## 【一人一人を大切にした取組として

### ～母語を保育に取り入れる～】

日常のあいさつなどは教員も意識して保育に取り入れているのですが、絵本の表示や誕生会の表示にも多言語を取り入れ、一人一人の母語を大事にしていることが視覚的にも分かるように環境を工夫しています。



## 【外国語絵本のコーナーの設置】

外国籍等幼児の母語の絵本棚をつくり、陳列することで、幼児が外国の言語に触れ、親しみや関心をもてるようにしています。

外国籍幼児にとっては、自分の母国の絵本が園内あることで居場所を感じたり、受け入れられている実感をもったりできるようになります。

同じ絵本がいろいろな国で読まれていることを知り、世界の子どもたちも同じように生活していることを感じられるようになっていきます。



## 【世界地図や国旗の掲示】

日本や世界の国々について関心をもてるように掲示しています。日本がどんな形をしているのか、友達の国がどこなのかなどを話題にすることで、世界がつながっていることや、遠くに暑い国や寒い国などがあることを感じられるようにしています。

オリンピック・パラリンピックなどをきっかけにして国旗の話題につなげたり、運動会で旗を作成して飾ったりして、世界の国々を尊重する気持ちを育てています。



## 【世界の人形】

各国の民族衣装に触れ、それぞれの国の文化に気付き、もっと知りたいという気持ちを育てています。また、伝統文化体験を取り入れ、自分の国にも伝統文化があることに気付き、親しみをもったり誇りをもったりできるように配慮しています。

外国籍等幼児の保護者に母国の話をしてもらい、歌や遊び、文化を紹介してもらう機会をつくっています。

日本語	カタカナ	ミャンマー語 (読み方)	ミャンマー語
くつ	パネツ	Pha-nat	ဖိနပ်
ぼうし	ウート	U hto	ဘူးဝတ်
かばん	ルエイト	Lwai-Aala	လှည့်ခဲလဲ
コップ	イェクワ	Yay-kwat	ခရက်
ハンカチ	レカイブワ	Lak-kite pa war	လက်ဖက်ရည်ခွက်
マスク		Mask	
えんぶく	エンジ	En-Ji	အင်္ကျီ
スモック	エンジ	En-Ji	အင်္ကျီ
うがい	バロチン	Pa-ket-chin	ဆေးရေ

## 【外国語の表示】

外国籍等幼児が安心して生活できるように、大切にされていると感じられるように表示しています。また、学級の友達が外国籍等幼児の母国に関心を持ち、世界にはいろいろな言葉があることを感じられるようにしています。

学級の友達が、外国籍等幼児が困っていることや不安に思っていることに気付き、声をかけるときにも役立っています。



## 【様々な行事を楽しむために

### ～降園時の連絡方法の工夫～

幼児だけでなく、保護者の方にも園行事に関心をもっていただくために、連絡方法を工夫しています。漢字にはルビをふったり、イラストや英単語を添えたりし、確実に伝わるようにしています。伝えたい情報を精選し、伝わりやすい簡単な文にすることも大切です。

同じ国の保護者同士で情報を通訳し合って補う姿も見られます。